

エーディーシー 疋田忠明社長に聞く

ネット上の中傷から企業守る

インターネットで人々が交流するソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）の普及などに伴い、ネット上で個人や企業が誹謗中傷されて被害を受けるケースが増えている。誹謗中傷対策サービスを手がけるエーディーシーの疋田忠明社長に事業戦略などを聞いた。

—サービスの概略は

「個人ブログの乱立やSNSの浸透によって、真偽が定かではなかったり、否定的な情報がネット上に増殖するようになった。例えば企業名でネット検索を行うと、悪いイメージのキーワードとともに表示されるケースが少なくない。そんなマイナス情報が検索トップ画面に出ってしまったら、大きなダメージを

受けるのは必至だ。こうした検索結果をできるだけ後ろの画面に押し下げ、検索した人の目に触れにくくするのが、われわれのサービスの役割だ」

—具体的な仕組みは

「依頼主の企業のホームページをはじめ、ブログやツイッターなどを立ち上げ、よい情報を発信する態勢を整える。トップ画面を自社サイトで占めることにより、必然的に他の悪評サイトを押し下げることになる」

—企業の反応は

「顧客が製品やサービスに対する苦情をネットに書き込むケースが顕著に増え、風評被害につながるネット情報の対策要請とともに受注が増えている。直近の1年間で個人を含めて、

300件の受注があった。問い合わせだけを見ると、1日当たり20～30件に達する」

—東京電力福島第1原発の事故によって、風評被害も深刻化している

「『風評被害』という検索キーワードの数は、驚異的に増えている。さまざまなブログやSNSによって好き勝手な書き込みが行われているからだ。こうした事象の改善には、かなりの時間を要するのではないかと」

—今後の戦略は

「ネット検索よりも、SNSの中から情報を直接入手するケースが増えていくはず。事実、世界では検索サイトのグーグルよりも交流サイトのフェイスブックの中で情報を探そうという



■ひきだ・ただあき

同志社大経卒。1997年に独立起業しウェブ制作やシステム開発に携わる。2005年にエーディーシーを設立、現職。42歳。滋賀県出身。

人が多い。このためSNSの中を監視し、悪い情報を見つけ次第、企業に伝えるという事業に力を入れたい。時代の流れを踏まえて『新しい情報媒体は何か』を先読みしながら、常に新たなサービスを提供していくことが重要な課題だ」

(伊藤俊祐)

■会社概要

▷事業内容—インターネット広告

▷本社—大阪市淀川区西中島5の14の10 サムティ新大阪フロントビル4階

▷資本金—1000万円

▷従業員数—20人